

希望調査に乗じて組織破壊攻撃を



動労千葉

86.12.18

No. 2434

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二二（七）二〇七

局課員・職制・裏切り者……労組破壊実績
自分が新会社へ行くための実数移り

動労千葉は、十二月十六日、第三回支部代表者会議を開催し、国鉄当局がこの十二月下旬にも全職員を対象に「進路希望調査票」を配布しようとしている年末年始を中心とした取り組みについて意志統一をはかった。

具体的選別の開始

国鉄八法案公布（12・4）、第一回設立委員会（12・11）をもつて具体的な選別攻撃が開始された。

しかし、事態は法案成立で何一つ決着がなかったわけではない。国鉄国会が山積する問題を何一つ解決できず、数にも関わらず強行採決で、問題を先送りしただけだ。

法案成立した直後のマスコミはいっせいに「難問山積」「何ひとつ解決していない」と報道した。

まさに困難だらけの「62・4・1」移行は矛盾が一気に吹きだす。

むき出しの労組つぶし

「11・30動労総連合結成大会」で中野委員長は「いくら矛盾が吹き出して、あらゆることがおこつてもそれを明らかにする労働者への組織的な闘いへと転化する実力部隊が存在しないかぎり、それはそれとしてまかり通つてしまふ」と提起している。

敵の攻撃に対して国鉄労働者で組織する実力部隊が断固として闘いに立ち上るならば敵の矛盾は一気に吹きだし大混乱に陥ることは必至である。

すさまじい組織攻撃の中で、今もって十方の国労組合員が歯をくいしばつて旗を守っている。国鉄当局は、この国労と

動労総連合・動労千葉の闘う勢力を徹底的に叩きつぶさなければ「62・4・1実現」は不可能となるばかりか中曽根の命取りともなりかねないのだ。敵にとつてもまさに命運のかかったギリギリの綱わたりなのだ。

局、職制、裏切り者による「脱退工作」を許すな

動労総連合、動労千葉の闘いの前進に対し、国鉄当局は露骨な動労千葉つぶしにでてきている。

国労「旧執行部」脱退―「東日本千葉鉄労」デッチ上げによる国労崩壊の進行のもとで、「動労千葉にいたら新会社へ行けない」などという「組合員を脱退させる」攻撃が選別で追いつめられ、生き残る評価のポイントを、労組破壊の「実績」に求めている職制達や、職制とつながつて自分だけ助かればいいと脱退した裏切り者をも利用して組合員への「脱退工作」を「進路希望調査票」配布する年末年始を中心としてかけようとしている。

中曽根や国鉄当局の意を体した毎日新聞のデマ記事、何よりも順法・ステッカ闘争への大量不当処分・強制配転「学園入学」の一方的指名・賃金差別・56予科試験・運転競技などのありとあらゆる組織破壊攻撃をかけてきている。

まさに、反動攻撃の集中砲火のもとでいまほど団結を強固にし、はねかえし粉碎しなければならぬ時はない。